

知財人財育成研究分科会セッション

◆ 知財部員の「キャリアパス」の変容と多様化 ◆

【パネリスト】敬称略・五十音順：経歴等は次ページ参照

奥村洋一（東京大学産学協創推進本部 ディレクター）

金間大介（日本知財学会 理事、金沢大学教授、東京大学客員教授）

八島英彦（三菱ケミカル（株）シニアコンサルタント）

【モデレータ】

妹尾堅一郎（日本知財学会 諮問委員（前理事）、NPO 法人 産学連携推進機構 理事長）

【総司会進行】

横田俊一（本分科会代表幹事、ペプチドリーム株式会社）

【概 要】

日本企業の産業競争力・事業競争力の強化に関して「知財関係者」はどれほど寄与できているのだろうか？ どうすれば、事業に貢献できる「知財関係者」を育成できるのだろうか？

つまるところ、「経営・事業に貢献できる知財人財の育成」をどうすべきか。この問題意識に基づく研究・啓発を行うことが、本学会の最古参分科会である知財人財育成研究分科会の基本的なテーマである。

今年度は、知財人財の活躍が期待される場の一つである「企業の知財部門」の部員のキャリアパスが大きく変容と多様化しつつあることから、キャリアの観点から、知財部門と知財人財の「過去・現在・未来」について、その変化の実態と要因、意味等を検討することとした。

従来、知財部員の多くは、研究開発系あるいは法務系から知財部門へ異動し、それ以後、定年まで「知財権利化周り」の専門家として活動・勤め上げ、定年退職後は知財関連の業務（特許事務所や知財調査機関、あるいは大学等の産学連携関連組織）に再就職することが多かったと言われる。しかしながら、近時は、異なるパターンも目立つ様になったようだ。本分科会として調査を準備中だが、特に大企業においては、次のような変化が見られるという。

①入口として、新人が配属されることもあるし、他部門から希望して異動してくる場合も少なくない。

②知財部門で定年まで勤めるのではなく、数年後に元の部門に戻ったり、新規事業の別担当になったりすることも少なくない。

③出口先として、子会社や関連企業の経営等を任される場合も少なくない。

これらをどうみるのか、あるいはどういう兆しとして捉えるべきか。その問題意識に基づきつつ、知財人財や知財部門自体を多様な角度から検討する機会としたい。

なお、このセッションは、答えを出すものではなく、問題提起を目的としている。学会らしい「気づき」と「学び」の場として、また次を「考える」場と機会になれば幸いである。

文責：妹尾堅一郎（本分科会主査）

知財人財育成研究分科会セッション

◆ 知財部員の「キャリアパス」の変容と多様化 ◆

【パネリスト】敬称略・五十音順

【奥村洋一（おくむらよういち）】（日本知財学会 諮問委員、東京大学産学協創推進本部
ディレクター）

1984年4月から2017年3月まで武田薬品工業株式会社勤務（特許出願・権利化、国内外特許・商標ライセンス、国内外特許侵害訴訟、製品ライセンス、M&A）。

2017年4月から2022年7月まで武田薬品からの Curve-out venture である SCOHIA PHARMA, Inc. の社長を務める。2023年4月より現職。

【金間大介（かなまだいすけ）】（日本知財学会 理事、金沢大学教授、東京大学客員教授）

横浜国立大学大学院工学研究科物理情報工学専攻（博士（工学））、バージニア工科大学大学院、文部科学省科学技術・学術政策研究所、北海道情報大学准教授、東京農業大学准教授などを経て、2021年より現職。博士号取得までは応用物理学を研究していたが、博士後期課程中に渡米して出会ったイノベーション・マネジメントに魅了される。それ以来、イノベーション論、モチベーション論等を研究。主な著書に『先生、どうか皆の前でほめないで下さい：いい子症候群の若者たち』（東洋経済新報社）、『静かに退職する若者たち：部下との1on1の前に知っておいてほしいこと』（PHP研究所）など。

【八島英彦（やしまひでひこ）】（三菱ケミカル（株）シニアコンサルタント）

東京工業大学大学院修了後、三菱化成工業（株）（現三菱ケミカル）に1982年入社。知的財産部門にて、特許出願・権利化、知財戦略立案・実行などの知財業務に従事（1991～1997の間、米国駐在）。2009年に知的財産部長、2011年から執行役員に就任。2012年に知的財産部門から研究開発部門に異動し、四日市開発研究所長を経て本社R&D戦略室長となり、R&Dマネジメント業務に5年間従事。2016年に三菱ケミカルリサーチ（株）社長に就き、2023年に退職するまで会社運営に努めてきた。その後、東北化学薬品（株）取締役（社外）、大塚化学（株）常勤監査役に就き、現在もそれらの業務に従事している。併せて、クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス（CLOMA）技術部会長に2023年から就任し、プラスチックの資源循環にも取り組んでいる。

【モデレータ】

【妹尾堅一郎（せのお けんいちろう）】（NPO法人 産学連携推進機構 理事長）

慶應義塾大学経済学部卒業後、富士写真フイルム（株）勤務を経て、英国国立ランカスター大学経営大学院博士課程満期退学。産能大学助教授、慶應義塾大学大学院教授、東京大学先端科学技術研究センター特任教授の他、九州大学、一橋大学大学院MBA等の客員教授を歴任。日本知財学会諮問委員（前理事）。CIEC（コンピュータ利用教育学会）終身会員（元会長）。研究・イノベーション学会参与（元副会長）。内閣知的財産戦略本部専門調査会会長、農水省技術会議委員、警察庁政策評価研究員等を歴任、複数企業の社外取締役を兼務。著訳書多数。現在も東京大学で大学院生を指導。また、企業研修やコンサルを通じてビジネスモデル、知財マネジメント、資源循環経済等の研究・啓発活動を実践中。